

## 神田秘帖

### 「3. 都道府県透析医会連合会創立」 山崎親雄

昭和 53 年の資料に出会いました。日本透析医会にとって神話の世界です。

この 53 年には、2 月に診療報酬改定が実施されました。それまでは、技術料（人工腎臓点数）2,150 点＋特定治療材料（ダイアライザ：都道府県購入価）だったものが包括されました。同時に時間区分が設定され、5 時間未満（1,300 点）・5 時間以上 9 時間未満（4,000 点）・9 時間以上（4,100 点）となり、夜間加算（150 点）が新設されました。

振り返って、この改定には二つの意味があったと思われます。まず一つは、透析医療普及のためはかなり高額であった透析医療費が、次の昭和 56 年の改定とセットで、抑制が始まったことを意味していることと、この材料包括という劇的な改定にさいし、それまで何度も関係者から要望が出されていながら認められてこなかった夜間加算が、見返りのような形で新設されたことです。

一方、当時の透析医療は、時には保険請求上の不祥事が新聞報道されることがあったり、若くして開業した透析医が、突然、高額所得者として新聞に掲載されたりし、医師仲間（医師会）からも理解が得られにくい状況でした。このことを憂慮した太田和宏先生（愛知県）は、県下の透析仲間に訴え、堂々たる透析医療を展開するために、愛知県透析医会を設立しました（太田和宏：日本透析医会設立（秘話）。日透医誌 2011；26(1)：167-169）。

その後、同じ思いを持つ全国の先生方に地域の透析医会の立ち上げを呼びかけ、昭和 53 年 12 月には、「日本透析医会」設立発起人会が東京で開催されることになりました。この時に、事業として、透析医療制度・医療保険制度の調査研究、政府・その他の関係機関ならびに関係団体との連絡協調に関する活動（実質は、診療報酬改定にさいして厚生省や医師会へ要望書を提出し、交渉することでしょうか）、透析医療従事者の教育、透析患者の社会復帰の促進……などが提示されました。なおこの時点で、名称を「透析医会」として設立され活動が開始されていたのは、北海道・宮城・愛知の 3 県のみでした。

その発起人会の後も、各県での医会設立への働きかけは行われたでしょうし、役員候補などへの依頼も行われたものと思われます。ただ、いろいろな事情があって、必ずしも順調ではなかったようで、例えば東京で役員候補としてお願いした先生からは、今、厚生省に対する圧力団体として活動することは望ましくないという理由で、お断りの手紙もあったようです。そうした中で、第 3 回日本透析医会設立世話人会（昭和 54 年 3 月：大阪）が開催されました。のちに、当会の理事などとして活躍される今忠正（北海道）・村上秀一（青森）・木川田典弥（岩手）・関野宏（宮城）・鈴木満（千葉）・小野山攻（大阪）・後藤宏一郎（福岡）・

工藤寛昭（大分）などの諸先生が出席されました。

この、3月の設立世話人会の時点では、450人以上（千葉県の秋澤忠男先生のお名前がありました）の発起人への参加があり、すべての都道府県を網羅しているものの、実際には18都道府県での透析医会が活動をしていたのみであることから、名称を「日本透析医会」ではなく、「都道府県透析医会連合会」として活動することが決定されました。この名称変更には、顧問として参加されることになった日本医学会副会頭で、元日本腎臓学会理事長の大島研三先生の意向もあったようです。ちなみに活動が始まっていた18都道府県は、北海道・青森・岩手・宮城・東関東（千葉・東京・茨城）・新潟・岐阜・静岡・愛知・三重・大阪・奈良・和歌山・広島・高知・福岡・熊本・大分の各都道府県でした。

最終的に、昭和54年4月15日に、都道府県透析医会連合会の設立総会が開催され、平澤会長のもと、特に診療報酬改定に向けての取り組みや、透析医療の将来ビジョン作成のための調査研究委託、透析医療機関経営分析などの事業が開始されました。事務所はまだ神田ではなく、愛知県透析医会に置かれました。

今から振り返ってみますと、当時の先生方が最も危惧した昭和56年の診療報酬改定では、中医協の場で日本医師会代表委員は、大学の手術室などで多くのマンパワーを要した透析は、「今やすでに普及した医療技術」として、このこともあって、ダイアライザと技術料を分離することに合わせて、25%以上の透析医療費の切り下げと、手術料から処置料への分類見直しが行われました。この間の涙ぐましいまでの活動については、次回の神田秘帖で。

ps：長きにわたり研修委員長をお引き受け頂いていた大平整爾先生が突然お亡くなりになりました。医師としてのあるべき姿を私たちに提示し続けていただいたことや、講演を聞いたり、書かれた文章を読んだりさせていただくと、患者さんをはじめ、本当に人にやさしい人柄がにじみ出ており、最も尊敬する透析医療の先達でした。長い間ご苦勞様でした。いまは安らかに眠りください。

日本透析医会名誉会長/増子クリニック 昴